

「総合」⑥ 問いから社会を読み解き、変革する

8月下旬に岡山大学で行われたESD子どもポスターセッションに、桐朋女子から2人の生徒が発表した。ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略で、持続可能な社会の創り手を育む教育である。生徒は「ポリコレと現代の作品・創作にポリコレ

は、「桐朋女子が地域にひらかれた学校になる努力をあまりしていない」ことが課題であると考えた生徒が令和3年に行ったプロジェクトである。コロナ禍で制約がある中、生徒は地域や学内の人たちにインタビューをしながら、このプロジェクトが「桐朋生が

した。また、本校では、生徒と教員が共に新しい制服をつくるプロジェクトを始めた結果、双方の意見を反映させ、伝統を継承しながらも、より快適に、より美しく着ることができるようデザインに仕上げることでできた。

なぜ、私たちは問いで深める探究的な学びをすすめるのか。それは、学校内外に、そして、国内外にあまりにも課題が多いからである。実際に、学

私の教育の原点は、「当たり前を問い直すことである。教育を知識伝達から、フィールドに出て異なる価値観を持

つ他者と出会ひ、自分の見方を問い直す学び

の考えは必要なのか」「日本がカミングアウトしやすい国になるには」という問いを立て、T・Project（本校のプロジェクト型探究）で成果を発表した。ポスターセッションでは、日本ESD

「当たり前」を疑い 山積する課題と対峙

校でも今までのやり方ではうまくいかないとき、教員だけでなく、生徒と一緒に問いを立て、考えてみると良いアイデアが生まれるかもしれない。

「地域×桐朋女子」地域に根付く学校になるために」

地域の魅力に気づき、地域の方が桐朋の魅力に気づき、また地域の方が地域の魅力を再発見できる」機会となり、「桐朋が今よりもっと地域に貢献し、愛される学校になつてほしい」と考えて行動した。

これがきっかけとなり、調布市東部公民館と本校が地域連携事業などのさまざまな連携を続けた結果、令和7年度調布市青少年表彰で本校が受賞

吉崎 亜由美

桐朋女子中・高等学校（東京都）教諭



員役割なのであろう。